

中 学 校

平成 30 年度

# 教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	4
IV	研究方法	4
V	研究構想図	5
VI	研究内容	6
VII	研究の成果と課題	19

## 英語を用いて生徒が主体的に話せるようにするための指導の工夫

### I 研究主題設定の理由

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、日常的に外国人とコミュニケーションを図る機会が増加するなど、実際に英語を用いて話す場面は生徒にとって身近なものとなってきている。さらに、グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。

国は、第2期教育振興基本計画（平成 25 年 6 月 14 日 閣議決定）の成果指標として、中学校卒業段階における英語力の目標（英検 3 級程度以上）を達成した生徒の割合を 50%以上としている。この指標に照らした東京都における生徒の英語力の状況は、「平成 29 年度英語教育実施状況調査」（文部科学省 平成 30 年 4 月）によると 51.6%であり、国の目標を上回っているものの、約半数の生徒に依然として課題があることを示している。

一方、中学校学習指導要領解説外国語編（平成 29 年 7 月）においては、今までの外国語の授業における課題として、次の内容が挙げられている。

- 「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないこと
- 「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと
- 生徒が、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することに課題があること

さらに、研究協議を通じて、本研究員の所属校において『話すこと』の活動を行う際、生徒が『何を話したらよいか分からない』、または、自分の話したい内容を『どのように話したらよいか分からない』ために、主体的に活動に取り組めていない。」という課題があることが分かった。そこで、この課題に関する生徒の実態を把握するため、9月に本研究員の所属校において以下の【図表 1】のとおり、アンケート調査を実施した。

9月実施 <英語で「話すこと」についてのアンケート> 回答生徒数 715 名

【質問】	○ 普段の英語の授業の中で「英語で自分の考えや気持ちを話す」とき、あなたの状況に最も近いものはどれですか。	
【回答】	① 話す内容が思い浮かび、それを英語で話すことができる。	9.8%
	② 話す内容が思い浮かび、それを英語でうまく表せないこともあるが、何とか話すことができる。	42.4%
	③ 話す内容は思い浮かぶが、英語でうまく表せず、話すことができない。	38.5%
	④ 話す内容が思い浮かばない。	9.3%

【図表 1】英語で「話すこと」に関するアンケート

調査の目的は、「生徒が英語で話せない場面」において、「内容が思い浮かばない（何を話したらよいか分からない）ことにより話せない」のか、「話したい内容を英語で表現することができない（どのように話したらよいか分からない）ために話せない」のか、生徒の課題を正確に把握することである。

アンケート調査の結果から、「英語で自分の考えや気持ちを話す」ことができないのは、「③内容は思い浮かぶが、それを英語でうまく表現できない」（38.5%）ことと、「④話す内容が思い浮かばない」（9.3%）ことに理由があることが明らかになった。本研究においては、これらの生徒の実態を踏まえながら、さらに協議を深めることで、生徒の課題を次の3点に整理した。

- ① 学習の見通しを立てたり、学んだことを振り返ったりする機会が十分でないため、何を話すべきか見通しが立たず、生徒が「話すこと」の活動に主体的に取り組めていない。
- ② 「話すこと」の活動のテーマや、活動の位置付けを十分に理解できないため、何を話したらよいか明確にできず、生徒が「話すこと」の活動に意欲的に取り組めていない。
- ③ 既習の語彙や表現、文法事項等を活用して即興で話す機会が十分でないため、英語で話す際に自分の伝えたい内容をどのように話したらよいか分からず、生徒が「話すこと」の活動において自分の考えや気持ちを適切に話せていない。

本研究においては、本研究員の所属校におけるこれらの生徒の課題に基づきながら、本年度の教育研究員の共通研究テーマである『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を踏まえ、中学校学習指導要領（平成29年3月）における「主体的な学び」に注目して、研究を深めることとした。

中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月）では、「主体的な学び」を「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」学びであると定義している。そこで本研究では、本研究員の所属校における生徒の課題を解決するため、目指す生徒像を「英語を用いて主体的に話すことのできる生徒」とし、研究主題を「英語を用いて生徒が主体的に話せるようにするための指導の工夫」とした。

## Ⅱ 研究の視点

研究主題である「英語を用いて生徒が主体的に話せるようにするための指導の工夫」の実現に向け、前述の中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月）の「主体的な学び」に関する記述等を参考に、本研究においては「主体的に話す」を次のように定義した。

### 「主体的に話す」

話すことに興味や関心を持ち、自分の考えや気持ちをどのように話すか見通しを立て、話す活動に粘り強く取り組み、話した内容を振り返って、次の話す機会につなげる。

さらに、この定義を基に「英語を用いて主体的に話すことのできる生徒」の育成を図るため、「主体的に話す」を次の三つの要素に整理した。

- ① 自分の考えや気持ちを表現する「話すこと」の活動において、学習の見通しを立てるとともに、話した内容を振り返って、次の話す機会につなげること
- ② 「話すこと」に興味や関心をもつこと
- ③ 「話すこと」の活動に粘り強く取り組むこと

本研究では、生徒がこれら三つの要素を実現し、「英語を用いて主体的に話す」ことができるようにするため、三つの要素に対応した指導方法の工夫を「研究の柱」として設定した。

#### <研究の柱①> 学習の見通しを立てさせ、振り返りを促すための指導の工夫

学習の見通しを立てることで生徒自身が主体的に「話すこと」の活動に取り組むとともに、振り返りを通じて生徒が自分の学習の状況を把握し、次の「話すこと」の機会に「気付き」や「改善の内容」を生かしていけるようになることをねらいとする。

単元の学習到達目標を生徒に明確に示し、教員と生徒がゴールイメージを共有するとともに、生徒の振り返りを促すようなワークシートを開発・活用することで、生徒が次の話す機会に振り返りの内容を生かしていくことができるようにする。

#### <研究の柱②> 「話すこと」の活動へ興味や関心をもたせるための指導の工夫

「話すこと」の活動に、積極的に取り組む意欲を高めることをねらいとする。

「話すこと」の活動のテーマや場面設定を工夫したり、単元のゴールとの関係を明確にした活動を、単元を通じて計画的に設定したりすることにより、生徒が「話すこと」の活動へ積極的に取り組めるようにする。

#### <研究の柱③> 既習事項を活用させるための指導の工夫

生徒が既習事項を活用しながら即興で自分の考えや気持ちを話し、やり取りを継続できる（話す活動に粘り強く取り組むことができる）ようにすることをねらいとする。

帯活動（既習事項を活用して、毎時間、短時間で行う継続的な活動）として、やり取りを継続するために必要な語彙や表現、文法事項等の定着を図る Q&A 活動（生徒がペアになって、英語でお互いに質問したり答えたりする活動）を実施する。また、既習の語彙や表現、文法事項等を活用して即興でやり取りする機会を十分に確保するため、同様に帯活動としてチャット活動（あるテーマに沿って、短時間、英語を用いて即興でやり取りする活動）を行うとともに、少しずつやり取りを継続できる時間を延ばせるよう、チャットの継続時間を段階的に設定する。さらに、「話すこと」の活動後のフィードバックの方法を工夫することで、生徒が自分の考えや気持ちを適切に話すことにつながるようにする。

### Ⅲ 研究仮説

単元を通じて学習の見通しを立てさせ、振り返りを促すための指導を行いながら、「話すこと」の活動へ積極的に取り組む意欲を高める指導、既習の語彙や表現、文法事項等を活用して即興でやり取りさせるための指導を継続して実施すれば、英語を用いて主体的に話すことのできる生徒が育成されるだろう。

### Ⅳ 研究方法

「英語を用いて主体的に話すことのできる生徒」を育成するため次のとおり研究を行った。

#### 1 課題の整理と指導方法の検討

本研究では、前述（P 1）のようにアンケート調査を実施し、生徒の課題を明確にするとともに、学習指導要領解説外国語編（平成 29 年 7 月）等の研究を通じて、課題を解決するための指導方法を検討し、研究主題を設定した。

#### 2 授業実践

検討した指導方法は、前述の「Ⅱ 研究の視点」に基づき実践した。

#### 3 検証授業及び授業実践を通じた成果と課題の整理

三つの「研究の柱」に基づいて、取組の効果を検証した。

##### <研究の柱①>の検証

開発したワークシートを用いることで、生徒が学習の見通しを立て、振り返りを行えているか。また、振り返りが次の「話すこと」の活動につながるものとなっているか。

##### <研究の柱②>の検証

「話すこと」の活動に対して生徒が興味や関心をもてるようにすることで、活動へ積極的に取り組む意欲を高めているか。

##### <研究の柱③>の検証

Q&A 活動が「既習事項の定着を図る活動」、チャット活動が「生徒が自分の考えや気持ちを即興でやり取りする活動」となっているか。

あわせて、これら三つの視点に基づいた授業実践が「英語を用いて主体的に話す生徒」の育成につながるものになっているか、という観点から仮説の検証を行った。各研究員が本研究において授業実践を行う中で明らかになった生徒の活動状況の把握、生徒が記入した振り返りシートの記載内容、生徒の意識調査の結果等から、研究の成果と課題をまとめた。

## V 研究構想図

### 【中学校学習指導要領解説外国語編（平成 29 年 7 月）で指摘されている課題】

- 「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていない。
- 「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではない。
- 生徒が、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することに課題がある。

### 【生徒の実態】

#### 「平成 29 年度英語教育実施状況調査」（文部科学省 平成 30 年 4 月）

東京都における「英検 3 級以上相当の英語力を有すると思われる生徒」の割合は 51.6%  
⇒ 国の目標の 50% 以上を上回っているものの、依然として約半数の生徒に課題

### 【本研究員の所属校における生徒の課題】

- ① 学習の見通しを立てたり、学んだことを振り返ったりする機会が十分でないため、何を話すべきか見通しが立たず、生徒が「話すこと」の活動に主体的に取り組めていない。
- ② 「話すこと」の活動のテーマや、活動の位置付けを十分に理解できないため、何を話したらよいか明確にできず、生徒が「話すこと」の活動に意欲的に取り組めていない。
- ③ 既習の語彙や表現、文法事項等を活用して即興で話す機会が十分でないため、英語で話す際に自分の伝えたい内容をどのように話したらよいか分からず、生徒が「話すこと」の活動において自分の考えや気持ちを適切に話せていない。



## 【研究主題】

### 英語を用いて生徒が主体的に話せるようにするための指導の工夫

【教育研究員共通研究テーマ】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

### 【研究仮説】

単元を通じて学習の見通しを立てさせ、振り返りを促すための指導を行いながら、「話すこと」の活動へ積極的に取り組む意欲を高める指導、既習の語彙や表現、文法事項等を活用して即興でやり取りさせるための指導を継続して実施すれば、英語を用いて主体的に話すことのできる生徒が育成されるだろう。

### 【研究の柱①】 学習の見通しを立てさせ、振り返りを促すための指導の工夫

- 生徒が学習の見通しを立て、振り返りを行うことができる「振り返りシート」の開発・活用
- 単元のゴールを生徒に明確に提示するとともに、単元のゴールとなる活動で活用できる英文等を生徒が記録する「Idea Note」の開発・活用

## 【目指す生徒像】

### 英語を用いて主体的に話すことのできる生徒

### 【研究の柱②】 「話すこと」の活動へ興味や関心をもたせるための指導の工夫

- コミュニケーションの目的、場面、状況等を明確にしたり、テーマの設定を工夫したりした単元のゴールとなる活動の設定
- 単元のゴールとなる活動との関連を明確にした上で、そこで重要となる語彙や表現を学習する「STEP の活動」の設定

### 【研究の柱③】 既習事項を活用させるための指導の工夫

- 帯活動として「既習事項の定着を図る Q&A 活動」及び「自分の考えや気持ちを即興で話し、やり取りを継続するチャット活動」の実施（Q&A 活動・チャット活動の充実）
- 共通した誤りを学級全体で共有する等のフィードバックの工夫

## VI 研究内容

### 1 各「研究の柱」の概要

本研究の三つの「研究の柱」の概要は以下のとおりである。

#### <研究の柱①> 学習の見通しを立てさせ、振り返りを促すための指導の工夫

- 単元目標及び単元を通じた学びの内容とその計画を生徒に明示することで、生徒が学習の見通しを立て、振り返りを行うことができる「振り返りシート」の開発・活用
- 単元の学習を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という単元のゴールを生徒に明確に提示するとともに、単元のゴールとなる活動で活用できる英文等を生徒が記録するワークシート「Idea Note」の開発・活用

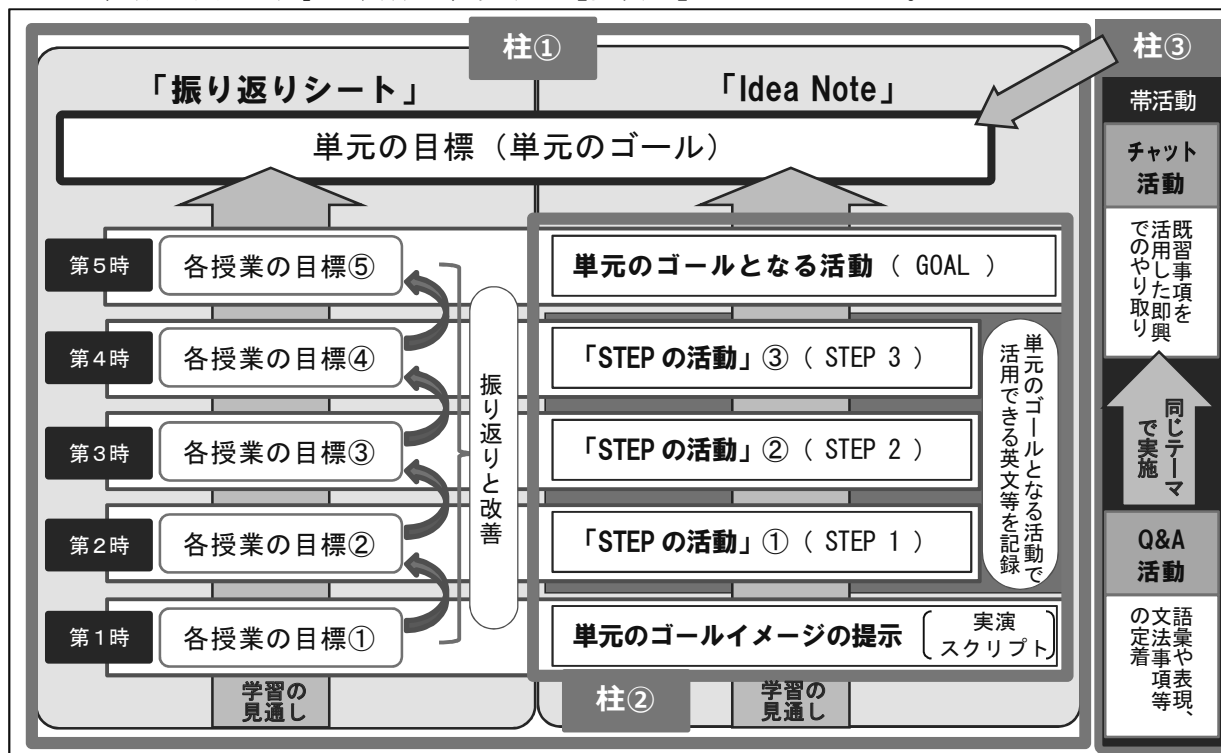
#### <研究の柱②> 「話すこと」の活動へ興味や関心をもたせるための指導の工夫

- コミュニケーションの目的、場面、状況等を明確にしたり、テーマの設定を工夫したりした単元のゴールとなる活動の設定
- 単元のゴールとなる活動との関連を明確にした上で、そこで重要となる語彙や表現を学習する「STEP の活動」の設定

#### <研究の柱③> 既習事項を活用させるための指導の工夫

- 帯活動として「既習事項の定着を図る Q&A 活動」及び「自分の考えや気持ちを即興で話し、やり取りを継続するチャット活動」の実施（Q&A 活動・チャット活動の充実）
- 共通した誤りを学級全体で共有する等のフィードバックの工夫

また、各「研究の柱」の関係は、以下の【図表 2】のとおりである。



【図表 2】各「研究の柱」の関係（1 単元を 5 時間とした場合の例）



## 2 研究の柱① 学習の見通しを立てさせ、振り返りを促すための指導の工夫

### (1) 「振り返りシート」について

「振り返りシート」においては、単元の目標及び単元を通じて学習する内容と計画（それぞれの内容を学習する順序等）を記載し、生徒が単元の学習の全体像を把握できるようにした。このことにより、生徒が学習の見通しを立て、振り返りを次の「話すこと」の活動に向けた改善に生かせるようにしている（「振り返りシート」の具体例は、P16【図表11】参照）。

「振り返りシート」は「この単元の目標」と「この単元の内容と各授業の振り返り、次の授業に向けた改善点」という項目で構成されている。「この単元の目標」では、単元の目標を「GOAL」という「CAN-DO形式」で示し、単元で扱う「STEPの活動」を「GOAL」に向けて順に示すことで、生徒が各授業の「話すこと」の活動と単元の目標との関連を理解できるようにしている。また、「この単元の内容と各授業の振り返り、次の授業に向けた改善点」では、各授業の目標を示すとともに、「STEPの活動」の配置が分かるようにした。

#### ア 「振り返りシート」の活用手順

(ア) 単元の第1時では単元の目標を提示し、この単元で何ができるようになるのかを生徒に理解させるとともに、各授業の内容と単元のゴールとなる活動のつながりを確認させる。

(イ) 単元の第2時以降の授業では、最後の5～7分程度、振り返りを行う時間を設定する。

「各授業の目標」を改めて確認させ、本時の目標に基づいて、本時でできたこと、次の授業でできるようになりたいことを振り返らせる。「STEPの活動」及び単元のゴールとなる活動を終えた後には、活動への取組状況についても振り返らせる。

### (2) 「Idea Note」について

「Idea Note」は、単元のゴールとなる活動の具体例と、そこで活用できる英文等を記録しておくための記入欄を記載したワークシートである（「Idea Note」の具体例は、P8【図表3】参照）。生徒が常に単元のゴールイメージを意識できるように、単元のゴールとなる活動の具体例を記載した。授業においては、教師とALT等による実演等によって生徒に具体例を提示した。さらに、具体例の各部分が、どの「STEPの活動」で学習するものであるか分かるよう、該当する英文の後には、「(STEP1)」のように「STEPの活動」の番号を記載した。各授業の学習内容と単元のゴールとなる活動のつながりを明確に示し、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようにした。

#### ア 「Idea Note」の活用手順

##### <単元の最初の授業>



- 単元のゴールとなる活動を提示（教師とALT等による実演）  
⇒ 生徒に具体的なイメージをもたせる。
- 単元のゴールとなる活動のスキプトの確認  
⇒ 単元で学習する語彙や表現、それらの活用方法を確認する。

##### <「STEPの活動」を実施する授業>



- 生徒の理解度に合わせ単元のゴールとなる活動を繰り返し提示  
⇒ 単元の目標を明確にさせる
- 「STEPの活動」の実施後に、単元のゴールとなる活動で活用できる語彙や表現の確認  
⇒ 生徒自身が活用したいと考えた語彙や表現を記録させる。

<単元のゴールとなる活動に向けた練習>

- 生徒自身が記録してきた語彙や表現についての振り返り  
⇒ 練習（ペアやグループによるリハーサル等）前に、活用できる既習事項に気付かせ、主体的な練習を促す。

(3) <研究の柱①>に関する事例

ア 単元のゴールとなる活動及び「振り返りシート」の事例

「5 検証授業① (8) 検証授業で扱った単元のゴールとなる活動及び『振り返りシート』の具体例」(P15 参照)

イ 「Idea Note」の事例

第1学年の例 (what time, which, where を文法事項として学習する単元の例)

### Idea Note

**目標：訪れた場所で、時刻や場所をたずねることができる。**  
(単元のゴールでは、旅行などで訪れた場所について以下のような会話をを行います。)

#### あるショッピングモールでの会話

お客様：Excuse me. Where are the restaurants? (STEP 3) I'm hungry.  
 従業員：Which do you like, Japanese food, Chinese food or Western food? (STEP 2)  
 お客様：I like Japanese food. Where are the Japanese food restaurants? (STEP 3)  
 従業員：They're in Zone A.  
 お客様：I see. What time do they open? (STEP 1)  
 従業員：They open at 11 a.m.  
 お客様：Thank you.

それぞれの英文が、どのSTEPで学べるかを示しています。

I see. や OK. など、あいづちもはさんで会話を行いましょう。

単元のゴールである「訪れた場所で質問する活動」に向けて、あなたが授業の中で聞いたり、話したり、読んだりした英文で「これは使えそう!」と思う英文を記録しておこう。

- (STEP 1)  
訪れた場所で、時刻をたずねるときに活用できそうな英文
- (STEP 2)  
食事について、好みをたずねるときに活用できそうな英文
- (STEP 3)  
訪れた場所で、場所をたずねるときに活用できそうな英文
- (GOAL)  
ペアでお客様役と従業員役を演じて会話をします。

【図表3】「Idea Note」の具体例 (第1学年)

### 3 研究の柱② 「話すこと」の活動へ興味や関心をもたせるための指導の工夫

#### (1) 単元のゴールとなる活動と「STEPの活動」について

単元のゴールとなる活動ではコミュニケーションの目的、場面、状況を明確にした活動を設定し、生徒が「何を話したらよいか」明確になるようにした。また、「STEPの活動」では、単元のゴールとなる活動のどの部分で活用できる内容を学習しているのか明確にすることで、生徒が「話すこと」の活動へ興味や関心をもてるようにした。

#### ア 単元のゴールとなる活動の具体例

単元のゴールとなる活動では、①活動の目標、②コミュニケーションの目的（何をするためのやり取りか）、③コミュニケーションの場面（どこで行われているやり取りか等）、④コミュニケーションの状況（誰と誰が行っているやり取りか等）、⑤使用している文法事項等の5点を明確にし、言語活動を設定した。具体例は次の【図表4】のとおりである。

例1 (第1学年)	①活動の目標 (CAN-DO 形式)	自分の好きな有名人や身近な人を紹介することができる。
	②コミュニケーションの目的	クラスメートとALT等に対して、自分の好きな有名人や身近な人を紹介するため
	③コミュニケーションの場面	英語の授業の中の発表活動
	④コミュニケーションの状況	発表する生徒と聴衆の生徒（聴衆からも質問することでやり取りとしてのスピーチとする。）
	⑤使用している文法事項等	he, she, does, 動詞の三人称単数現在形など
例2 (第2学年)	①活動の目標 (CAN-DO 形式)	東京の好きな場所や名所について海外の方に紹介できる。
	②コミュニケーションの目的	自分の好きな場所や東京の名所等の良さを伝えるため
	③コミュニケーションの場面	都内各所の観光案内所等
	④コミュニケーションの状況	観光客と観光案内ボランティア等
	⑤使用している文法事項等	動名詞、「There+be 動詞+～」、「look + 形容詞」
例3 (第3学年)	①活動の目標 (CAN-DO 形式)	新商品の魅力を海外のお客さんに伝えることができる。
	②コミュニケーションの目的	新商品の魅力を伝えるため
	③コミュニケーションの場面	商品発表のプレゼンテーション
	④コミュニケーションの状況	商品を開発した発表者と聴衆（聴衆からも質問することでやり取りとしてのプレゼンテーションとする。）
	⑤使用している文法事項等	現在分詞、過去分詞、接尾節

【図表4】単元のゴールとなる活動において明確にしたコミュニケーションの目的、場面、状況等

#### イ 「STEPの活動」の具体例

「STEPの活動」では、単元のゴールとなる活動を構成する各部分を学習する。本研究においては、多くの場合、各単元にSTEP1からSTEP3までを段階的に設定し、単元で新たに学習する文法事項等の活用を通じて、それらの表現の定着を図った。例えば、【図表4】の「例1（第1学年）」で示した単元のゴールとなる活動に対しては、次の【図表5】に示すような「STEPの活動」が考えられる。

各活動	各活動の目標及び活動内容
STEP 1 動詞の三人称単数 現在形について 学習する。	目標：身近な人について、「～します」と紹介することができる。 内容：動詞の三人称単数現在形を学習後、自分の家族や学校の先生、教科書の登場人物などについて、like, play, practice, live in, come from などを用いてペアの相手に写真や絵を見せながら紹介する。

<b>STEP 2</b> does を用いた 疑問文について 学習する。	目標：身近な人について「～しますか」と質問することができる。 内容：出題側の生徒が、学校の先生のシルエット写真を相手に見せ、Who is this?と質問する（「この先生は誰でしょうクイズ①」）。回答側の生徒はヒントを得るために Does he/she? と質問し、出題側の Yes, he/she does. または No, he/she doesn't. という回答を基に、どの先生のことか予想する。
<b>STEP 3</b> does を用いた 否定文について 学習する。	目標：身近な人について「～しません」と表現することができる。 内容：出題側の生徒が、He/She likes~. He/She doesn't play ~. のように、does を用いた否定文も活用しながら学校の先生のことを紹介する（「この先生は誰でしょうクイズ②」）。回答側の生徒は、出題側の紹介内容を参考に、Is he/she ~? と予想した先生の名前を相手に伝える。
<b>GOAL</b> 単元のゴール となる活動	目標：自分の好きな有名人や身近な人を紹介することができる。 内容：he, she, does, 動詞の三人称単数現在形などを用いて（does を用いた疑問文、否定文を含む。）、自分の好きな有名人や身近な人を、クラスメートと ALT 等に対して紹介する。また聞き手側も、Does he/she ~? で発表者に質問する。

【図表 5】単元を通じた「STEP の活動」の例（第 1 学年）

(2) <研究の柱②>に関する事例

ア 「STEP の活動」の事例

以下の【図表 6】『STEP の活動』で用いたワークシートの具体例（第 3 学年）は、【図表 4】（P 9）の「例 3（第 3 学年）」で示した単元のゴールとなる活動に向けた「STEP の活動（STEP 3）」の事例である。STEP 1 で現在分詞による後置修飾、STEP 2 で過去分詞による後置修飾を学習した後、接触節による後置修飾を学習する STEP 3 の活動として、【図表 6】に示したようなワークシートを使用した。

### Activity in Lesson 4

**本時の目標：後ろから名詞を説明する表現を使って身の回りの物を表現できる。**

**単元の Goal：新商品の魅力を海外の客に伝えることができる。**

#### Quiz “What am I talking about?”

☆ ヒントを聞いて、相手が何について話しているのか当ててみよう！

- ① 下の  の中から、1 つ選ぶ。
- ② それはどんなものなのか相手に教える（使い方、特徴など）。
- ③ 答えがわかったら “Is it ~?” とたずねる。

**Example**

A: This is something we see in the classroom.  
B: Is it a clock?  
A: No. This is something we use when we study or eat lunch.  
B: Is it a desk?  
A: No. This is something we sit on.  
B: Is it a chair?  
A: Right!

1. pencil    2. umbrella    3. bike    4. dictionary    5. notebook  
6. bus    7. ruler    8. hat    9. bag    10. TV

※ 慣れてきたら  にあるもの以外のものでクイズを作ってみよう！

【図表 6】「STEP の活動」で用いたワークシートの具体例（第 3 学年）

#### 4 研究の柱③ 既習事項を活用させるための指導の工夫

##### (1) Q&A 活動について

Q&A 活動では、テンポよくやり取りができることを目標に、主に授業冒頭に、帯活動としてペアワーク形式で取り組ませた。Q&A 活動のワークシートには、テーマごとに5題ずつ質問と回答のやり取りを掲載し、回答の際に生徒自身が考えて発話する部分には下線を付けた形で例を示した。また、チャット活動へつなげる要素として、回答例に示された1文を発話した後、例えば Yes/No と答えた理由や、回答と関連した内容を1文加えて話すなど、やり取りを継続するための指導も併せて実施した。

本研究においては、Q&A 活動のワークシートで「テーマ」の欄に示されている内容（P12【図表8】の①～④を参照）をチャット活動で扱うテーマと共通させることで、Q&A 活動で身に付けた語彙や表現、相手への質問の方法などを、チャット活動でそのまま使用することができるようにした。このことにより、Q&A 活動とチャット活動を関連付け、扱う語彙や表現等に対する生徒の興味や関心を高めることで、各活動に生徒が意欲的に取り組めるようにした（具体的なテーマ設定の例についてはP12【図表9】を参照）。また、語彙や表現等の定着状況など、生徒の実態にあわせてQ&A活動を繰り返す回数を増やしたり、同じ授業の中でQ&A活動とチャット活動の両方を行ったりするなど、これら二つの活動の接続について配慮した。

##### (2) チャット活動について

チャット活動は、Q&A 活動で扱ったテーマをそのまま利用し、指定された時間内で英語によるやり取りを継続する活動である。本研究では「30秒間⇒40秒間⇒1分間」と、1分間を目標に会話を継続する時間を段階的に延長しながら実施した。なお、チャット活動を実施する際には「平成28年度 教育研究員報告書（中学校・外国語）」（東京都教育委員会）10、11ページに掲載されている「Topic Chatのための表現集」を活用した。

チャット活動を実施する際には自己評価シートを活用し、「①話す内容が思いつき、それを英語で話すことができた。②話す内容が思いつき、それを英語でうまく表せないことも少しあったが、何とか話すことができた。③話す内容は思いついたが、英語でうまく表せず話すことができなかった。④話す内容が思い浮かばなかった。」の4段階で自己評価をさせるとともに、「こんな表現が言えたら」という内容も記録させることで、同じテーマで再びチャット活動を行った際、自分の考えを英語で表現するためのヒントとなるようにした。振り返りシートは、以下の【図表7】「チャット活動の自己評価シート」のような形式とし、実施するチャット活動の時間に応じて（30秒）の部分（40秒）、（1分）とした表を使用した。

① (30秒)	DATE: / PARTNER:	評価 できる← ① ② ③ ④ →できない
	こんな表現が言えたら:	
② (30秒)	DATE: / PARTNER:	評価 できる← ① ② ③ ④ →できない
	こんな表現が言えたら:	

【図表7】チャット活動の自己評価シート

(3) フィードバックの工夫について

Q&A 活動やチャット活動、また「STEP の活動」等を通じて、語彙や表現、文法事項等を知識として理解していても、生徒が誤った語彙や表現を用いたまま会話を進めてしまう場合が多く見られた。そこで、既習事項の定着や既習事項を活用して話す力を育成するため、①生徒の発話や状況、②フィードバックの方法（タイミング、対象等）、③フィードバックの内容の3点に注目してフィードバックを行った（P13【図表10】を参照）。フィードバックを行う際には生徒に気づきを促すことで、その後の行動が改善されるようにした。

(4) < 研究の柱③ >に関する事例

ア Q&A 活動で使用したワークシートの事例

	Question	Answer	テーマ
1	Where is your favorite place in Tokyo?	My favorite place is <u>Shibuya</u> .	① 東京の好きな場所
2	Are there any good shops?	Yes, there are. / No, there aren't.	
3	Where is the best place for sightseeing?	<u>Asakusa</u> is the best.	
4	What can I do there?	You can <u>enjoy eating ningyo-yaki</u> .	
5	What do you like to do there?	I like to <u>walk around Nakamise Street</u> .	
6	Will you use English in the future?	Yes, I will. / No, I won't (will not).	② 自分の将来
7	What did you want to be 10 years ago?	I wanted to be a <u>pastry chef</u> .	
8	What do you want to be now?	I want to be a <u>fire fighter</u> .	
9	Do you do anything special for your dream?	Yes, I do. / No, I don't.	
10	What will you do for your dream?	I will <u>run every day</u> .	
11	What festival do you like the best?	I like <u>the summer festival in my town</u> the best.	③ 祭やイベント
12	Do you want to wear costumes for Halloween?	Yes, I do. / No, I don't.	
13	I think <u>Halloween</u> is now a Japanese holiday.	I think so, too. / Sorry, I don't think so.	
14	What do you want for Christmas?	I want a <u>new racket</u> .	
15	Who gave you a Christmas present last time?	<u>Santa</u> did.	
16	I like <u>listening to music</u> every weekend. How about you?	I like <u>watching TV</u> .	④ 休日の過ごし方
17	Do you usually <u>stay at home</u> or go out on weekends?	I usually <u>stay at home</u> . / <u>go out</u> .	
18	What will you do this weekend?	I will <u>go to Odaiba</u> . / I will <u>play tennis</u> .	
19	What do you want to do during the winter vacation?	I want to visit my grandparents in <u>Tochigi</u> .	
20	I think you should <u>study English</u> this weekend.	I see. / Really? I don't think so.	

【図表8】Q&A 活動のワークシートの具体例（第2学年）

イ Q&A 活動とチャット活動のテーマ設定に関する事例

時	活動内容	テーマ	時	活動内容	テーマ
第1時	Q&A 活動	自己紹介[1]	第9時	チャット活動(40秒)	自己紹介[3]
第2時	Q&A 活動	部活・スポーツ[1]	第10時	チャット活動(40秒)	部活・スポーツ[3]
第3時	Q&A 活動	勉強・授業[1]	第11時	チャット活動(40秒)	勉強・授業[3]
第4時	Q&A 活動	音楽[1]	第12時	チャット活動(40秒)	音楽[3]
第5時	チャット活動(30秒)	自己紹介[2]	第13時	チャット活動(1分)	自己紹介[4]
第6時	チャット活動(30秒)	部活・スポーツ[2]	第14時	チャット活動(1分)	部活・スポーツ[4]
第7時	チャット活動(30秒)	勉強・授業[2]	第15時	チャット活動(1分)	勉強・授業[4]
第8時	チャット活動(30秒)	音楽[2]	第16時	チャット活動(1分)	音楽[4]

【図表9】Q&A 活動とチャット活動のテーマ設定例

ウ フィードバックに関する事例

①生徒の発話や状況	②フィードバックの方法	③フィードバックの内容
Q&A 活動においてワークシートだけを見たまま会話をしていた。	活動を一度止め、学級全体に対して	教師が大げさな悪い例を示し、相手を見て話すことの大切さに気付かせた。
チャット活動において、I study English yesterday. と過去形にしている発話があった。	活動後に学級全体に対して	誤った英文を板書し、動詞が過去形になっていないことに気付かせてから、正しい英文を引き出した。
「STEP の活動」において、Taku play the guitar. と三人称単数現在形にしている発話があった。	活動の途中で当該生徒に対して、また、活動後に学級全体に対して	Who <u>plays</u> the guitar? と三人称単数現在形の s を強調して発話することで、s の必要性を気付かせた。
振り返りシートにおいて、「頑張った」「読めたのでよかった」など、活動の目標と関連していない記述があった。	次時で振り返りを行う際に、学級全体に対して（その後、英語科通信等を通じて）	活動の目標と関連して書かれた振り返りの例を紹介し、振り返りの趣旨を確認した。よい振り返りの例は英語科通信に取りまとめて紹介した。

【図表 10】フィードバックの具体例

5 検証授業①より

(1) 単元名 Lesson 4 “Ms. King’s Trip with Her Friend” (ONE WORLD 2)

(2) 単元の目標

ア 東京の好きな場所や名所などを話したり、相手に質問したりできる。

イ 学んだ表現を使い、会話を続けようとするなど意欲的に話す活動に取り組む。

ウ 学んだ表現を含む本文の内容から、情報を読み取ることができる。

エ 「動名詞」、「There + be 動詞+〜」、「look+形容詞、sound+形容詞」文構造等を理解し、東京の好きな場所や名所を表す際に活用することができる。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
話す活動において、間違いを恐れず、積極的に英語を話そうとしている。	①英語の特徴を意識しながら教科書本文を音読することができる。 ②既習事項を用いて、東京の好きな場所や名所について自分の考えを述べたり、相手に質問したりすることができる。	①本文を読んで、登場人物の旅行について理解できる。 ②相手が話す東京に関する情報を理解することができる。	動名詞、There + be 動詞+〜、look+形容詞、sound+形容詞の意味を理解している。

(4) 単元の指導計画 (全 10 時間)

ア 単元のゴールとなる活動とそれに向けた各「STEP の活動」を設定した。

GOAL 「東京の好きな場所や名所について海外の方に紹介できる。」	
STEP 1	Lesson 4 Part 1 動名詞の形を理解し、自分の好きな行動や東京で楽しめることについて表現する。
STEP 2	Lesson 4 Part 2, 3 There is / are ~の形を理解し、東京にあるものや名所について表現したり、相手にたずねたりする。
STEP 3	Lesson 4 Part 4 look+形容詞、sound+形容詞の形を理解し、東京にあるものや名所の様子を表現する。

## イ 単元の指導計画

	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A 活動（テーマ①「学校生活」）</li> <li>Lesson 4 Part 1 の導入、音読、内容理解</li> <li>動名詞の理解及び練習</li> </ul>	イ① ウ①（観察、ワークシート）
第2時 <b>STEP 1</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A 活動（テーマ②「夏休みの思い出」）</li> <li>Lesson 4 Part 1 の音読、内容理解</li> <li>東京でできる好きな行動や東京で楽しめることを相手に伝える。</li> </ul>	イ② エ（観察、ワークシート）
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A 活動（テーマ③「好きな場所」）</li> <li>Lesson 4 Part 2 の導入、音読、内容理解</li> <li>「There + be 動詞＋～」の理解及び練習</li> </ul>	イ① ウ①（観察、ワークシート）
第4時 <b>STEP 2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A 活動（テーマ④「2学期の予定」）</li> <li>Lesson 4 Part 2 の音読、内容理解</li> <li>東京の好きな場所や名所を紹介する。</li> </ul>	イ② エ（観察、ワークシート）
第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>「30 秒間チャット」（テーマ①）</li> <li>Lesson 4 Part 3 の導入、音読、内容理解</li> <li>「There + be 動詞＋～疑問文」の理解及び練習</li> </ul>	イ① ウ①（観察、ワークシート）
第6時 （本時） <b>STEP 2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「30 秒間チャット」（テーマ②）</li> <li>Lesson 4 Part 3 の音読、内容理解</li> <li>東京の好きな場所や名所について相手にたずねる。</li> </ul>	イ② エ（観察、ワークシート）
第7時	<ul style="list-style-type: none"> <li>「30 秒間チャット」（テーマ③）</li> <li>Lesson 4 Part 4 の導入、音読、内容理解</li> <li>「look＋形容詞」、「sound＋形容詞」の理解及び練習</li> </ul>	イ① ウ①（観察、ワークシート）
第8時 <b>STEP 3</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「30 秒間チャット」（テーマ④）</li> <li>Lesson 4 Part 4 の音読、内容理解</li> <li>東京の好きな場所や名所の様子について表現する。</li> </ul>	イ② エ（観察、ワークシート）
第9時	<ul style="list-style-type: none"> <li>「40 秒間チャット」（テーマ①）</li> <li>Lesson 4 の内容についてまとめ</li> <li>東京の好きな場所や名所を紹介する際の表現を考える。</li> </ul>	ア エ（観察、ワークシート）
第10時 <b>GOAL</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「40 秒間チャット」（テーマ②）</li> <li>ペアで東京の好きな場所や名所を紹介する。</li> <li>相手の紹介に対して質問をする。また、質問に答える。</li> </ul>	ア ウ②（観察、ワークシート）

### (5) 指導にあたって

ア 帯活動として行う Q&A 活動では、本単元のゴールに関わるテーマを扱うことで、本単元のゴールとなる活動と関連をもたせるようにした。

イ 「東京の好きな場所や名所について海外の方に紹介する。」という単元のゴールとなる活動に向けて、各授業内の活動に関連性をもたせた。それぞれの「STEP の活動」が単元のゴールとなる活動に直接役立つよう工夫した。また、授業冒頭の「質問応答ゲーム」では、チャット活動で扱うテーマの質問や本文の内容に関する質問を扱うことで、本時の内容全体に関わるインプットとなるように工夫した。

### (6) 本時の展開

時間	指導過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
3分	1 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質問応答ゲーム</li> <li>教師からの既習事項の質問に返答後着席する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の Q&amp;A 活動に含まれる質問や文法事項、前の生徒の答えを問う質問など幅広く扱う。</li> </ul>	
7分	2 帯活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ②「夏休みの思い出」の Q&amp;A 活動でテーマに関する質問項目を確認する。</li> <li>ペアを変えて「30 秒間チャット」を行う。</li> <li>チャット振り返りシートに反省と改善を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の目を見て発話することや、つなぎ言葉の使用を促す。</li> <li>チャット活動終了後に共通の間違いや生徒の言いたかったことを確認し、その表現を確認する。</li> </ul>	



10分	3 教科書 内容確認①	○既習事項の復習 ・ピクチャーカードの絵を見ながら本文 Part 3 の内容を聞いて、話の概要を確認する。 ・2分間音読し続ける。(音読①) ・役になりきって対話文を音読する。(音読②)	・英問英答で理解を促す。この際、後で解くワークシートの問題を用いる。  ・ <small>りゅうちょう</small> 流暢さを意識させる。 ・相手を見て音読させる。	
7分	4 教科書 内容確認②	・ワークシートの英問英答問題を2問解く。 ・ペアで答えを確認した後に全体で確認する。	・答え合わせは個人→ペア→全体の流れとする。 ・答え合わせで終わらず、口頭での確認も行う。	エ（観察、ワークシート）
16分	5 <b>STEP 2</b>	○東京の好きな場所や名所についてたずね、それに答える。 ・ワークシートの選択肢にある名所（雷門など）から1か所選ぶ。 ・活動の最後に言いたかったことの表現方法を全体で共有する。	・東京の名所は校外学習で生徒が訪れる可能性の高い場所を選ぶ。 ・活動後に気に入った表現は「Idea Note」に記入させる。	イ②（観察）
7分	6 振り返り	○振り返り ・「授業でできたこと」と「次の授業でがんばりたいこと」を記入する。 ・「Idea Note」に自分の気に入った表現や単元のゴールとなる活動で使えると考えられる表現を記入する。	・何ができなかったかを明確にさせ、その上で次回は何を達成したいかを具体的に考えさせる。 ・「Idea Note」に記入できるように参考となる表現を黒板に書き出す。	

#### (7) 検証授業①における成果と課題

##### ア 検証授業①における成果

「振り返りシート」及び「Idea Note」を活用することで、第1時からの振り返りが一連の流れとして確認できるため、生徒がこれまでの課題や成果を理解しやすくなっていた。また、単元の流れが示してあることから、生徒が次時で何を努力すればよいのか、改善すべきなのかを考えながら振り返りを行い、学習の見通しを立てることができた。加えて、単元のゴールに向けた学習の積み重ね（「STEP の活動」の順序等）を示したことにより、単元全体として学習内容を捉え、授業に取り組む意識を高めることができた。また、Q&A活動とチャット活動で扱うテーマを同一にしたことにより、チャット活動において生徒が容易に会話を始めることができていた。

##### イ 検証授業①における課題

生徒の振り返りに関して「がんばった。」「話せた。」など、本時の目標に基づいた振り返りとなっていないものも多く見られた。今後は、生徒が「振り返りシート」に記入する際、振り返りの視点を明確に示す必要がある。また、本検証授業の実施時点では、「Idea Note」に単元のゴールとなる活動の具体的なスクリプトを記載しておらず、単元の第1時に実演によりゴールイメージを提示したのみであったため、本時（第6時）においては生徒の中でゴールイメージが薄れ、何を「Idea Note」に記載しておけばよいか生徒が戸惑うことがあった。「Idea Note」に単元のゴールとなる活動の具体例を記載する必要がある。

#### (8) 検証授業で扱った単元のゴールとなる活動及び「振り返りシート」の具体例

##### ア 単元のゴールとなる活動の具体例

- 単元のゴール「東京の好きな場所や名所について海外の方に紹介できる。」
- 単元で学習する文法事項：動名詞、「There + be 動詞 + ~」、「look + 形容詞」
- スクリプト例（授業では、教師とALT等との実演によって生徒に提示する。）

観光客役: Are there any great places in Tokyo? (STEP 2)  
 案内役 : Yes, Tsukishima is great. It is famous for monja-yaki.  
You can enjoy eating monja-yaki there.(STEP 1)  
 観光客役: It looks delicious! (STEP 3)  
Are there any good places in Tsukishima? (STEP 2)  
 案内役 : Yes, there are. (STEP 2)  
You can enjoy seeing a famous beautiful bridge there. (STEP1)  
 観光客役: Thank you.  
 案内役 : You're welcome.

(月島のもんじゃ焼きの写真を見せながら案内役が紹介する場面)

イ 検証授業①で使用した「振り返りシート」の具体例

## Lesson 4 の流れ

○この単元の目標

GOAL	東京の好きな場所や名所について海外の方に紹介できる。
STEP 3	Lesson 4 Part 4 look + 形容詞, sound + 形容詞の使い方を理解し、東京にあるものや名所の様子を 紹介できる。
STEP 2	Lesson 4 Part 2, 3 There is / are ~の使い方を理解し、東京にあるものや名所について表現したり、相 手にたずねたりすることができる。
STEP 1	Lesson 4 Part 1 動名詞の使い方を理解し、東京で楽しめることなどについて紹介できる。

○この単元の内容と各授業の振り返り、次の授業に向けた改善点

	各授業の目標	授業の中でできたこと	次の授業でがんばりたいこと
1	自分の好きな行動の表し方を理解する。		
2	東京でできる好きなことや楽しめることを話したり、書いたりできる。【STEP 1】	活動への取組： ① ② ③ ④	
3	ものや場所がどこにあるかの表し方を理解する。		
4	東京の好きな場所や名所を話したり、書いたりすることができる。【STEP 2】	活動への取組： ① ② ③ ④	
5	ものや場所がどこにあるかたずねる言い方と答え方を理解する。		
6	東京の好きな場所や名所をたずねたり、答えたりすることができる。【STEP 2】	活動への取組： ① ② ③ ④	
7	ものや場所の様子の表し方を理解する。		
8	東京の好きな場所や名所の様子について話したり、書いたりできる。【STEP 3】	活動への取組： ① ② ③ ④	
9	Lesson 4 の内容を生かして、東京の好きな場所や名所、楽しめることなどを話すことができる。		
10	東京の好きな場所や名所を紹介し、相手に質問することができる。また、それに答えることができる。【GOAL】	活動への取組： ① ② ③ ④	

※「活動への取組」：① 積極的にできた。 ② 少し積極的にできた。  
 ③ あまり積極的にできなかった。 ④ 積極的にできなかった。

【図表 11】 振り返りシートの具体例（第 2 学年）

## 6 検証授業②より

(1) 単元名 Lesson 6 “My Family” (*NEW CROWN ENGLISH SERIES 1*)

(2) 単元の目標

- ア 既習事項を用いて会話を続けようとするなど、意欲的に話す活動に取り組む。
- イ 自分の好きな有名人や身近な人について話したり、やり取りをしたりすることができる。
- ウ 身近な人や好きな有名人の話聞いて、その内容を理解することができる。
- エ 「主語＋動詞＋目的語」を含む文の構造を理解し、「話すこと」の活動で生かすことができる。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
話す活動において、間違いを恐れず、積極的に英語を話そうとしている。	①英語の特徴を意識しながら教科書本文を音読することができる。 ②既習事項を用いて、自分の身近な人や好きな有名人について話したり、相手に質問したりすることができる。	身近な人や好きな有名人の話聞いて、その内容を理解することができる。	「主語＋動詞＋目的語」を含む文の構造を理解している。

(4) 第1回検証授業からの改善点

第1回目の検証授業では、単元のゴールとなる活動の具体例を明確に示すことができず、生徒が単元のゴールとなる活動で活用できる表現を「Idea Note」に十分に書き留めることができなかった。そこで今回の検証授業では、「Idea Note」に単元のゴールとなる活動の具体例を記載するとともに、既習事項である be 動詞や一般動詞を活用した「自分の身近な人や好きな有名人」についての文を繰り返し示すことで、単元のゴールとなる活動で活用できる語彙や表現を明確に示すとともに、生徒がこれらの表現を活用できるようになることを目指す。

(5) 単元の指導計画 (全 12 時間)

※ 単元のゴールとなる活動と各「STEP の活動」の示し方については検証授業①と同様

	学習内容・学習活動	評価規準 (評価方法)
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の計画とゴールの理解</li> <li>・主語が三人称単数である「主語＋動詞＋目的語」を含む文構造の理解</li> <li>・Lesson6 Part1 の本文の概要理解</li> </ul>	エ (後日テスト) イ① (観察)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Lesson6 Part1 の本文概要の振り返り、音読</li> </ul>	イ① (観察)
第3時 (本時) <b>STEP 1</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人、好きな有名人 (一人) について、「～する」と紹介する。</li> </ul>	ア (観察) イ② (ワークシートの点検)
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語が三人称単数である「主語＋動詞＋目的語」を含む疑問文の構造の理解</li> <li>・Lesson6 Part2 の本文の概要理解</li> </ul>	エ (観察) イ① (観察)
第5時 <b>STEP 2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Lesson6 Part2 の本文概要の振り返り、音読</li> <li>・「この先生誰でしょうクイズ①」</li> </ul>	イ① (観察) イ② (ワークシートの点検)
第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語が三人称単数である「主語＋動詞＋目的語」を含む否定文の構造の理解</li> <li>・Lesson6 Part3 の本文の概要理解</li> </ul>	ア (観察) エ (観察)
第7時 <b>STEP 3</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Lesson6 Part3 の本文の概要の振り返り、音読</li> <li>・「この先生誰でしょうクイズ②」</li> </ul>	ウ (観察) イー② (ワークシートの点検)

第8時	・主語が三人称単数である「主語＋動詞＋目的語」を含む文のまとめ	エ（後日テスト） イ①（音読テスト）
第9時	・「身近な人・好きな有名人」について「Idea Note」を参考に、発表の概要を考える（1回目）。	ウ（ワークシートの点検） エ（ワークシートの点検）
第10時	・「身近な人・好きな有名人」について「Idea Note」を参考に、発表の内容を考える（1回目）。 ・「身近な人・好きな有名人」について、ペアやグループで発表の練習をする（1回目）。	ウ（ワークシートの点検） エ（ワークシートの点検）
第11時	・「身近な人・好きな有名人」について「Idea Note」を参考に、発表の内容を再検討する。 ・「身近な人・好きな有名人」について、ペアやグループで発表の練習をする（2回目）。	ア（観察） イ②（観察）
第12時 <b>GOAL</b>	・クラス全体の前で、ALTの先生に対して、身近な人や好きな有名人を紹介する発表を行う。	ア（観察）、イ②（観察） ウ（評価シートの点検）

#### (6) 指導にあたって

ア 単元のゴールとなる活動の具体例を、単元の第1時に「Idea Note」と教師のデモンストラレーションによって生徒に提示した。生徒が単元のゴールに向けて学習の見通しをもてるようにするとともに、単元を通じた「話すこと」の活動が、単元のゴールの一部となっていることを「Idea Note」や「振り返りシート」を用いて確認することで、各時の「話すこと」の活動に生徒が意欲的に取り組めるようにした。

イ 帯活動として行うQ&A活動では、学校行事や生徒の日常生活に関する身近な話題、「自分の好きな有名人」というテーマを扱い、後のチャット活動や単元のゴールとなる活動と内容面で関連をもたせた。

ウ チャット活動では、一つのテーマに関して30秒間、40秒間、1分間の順に、スモールステップで実施した。また、生徒が同じテーマで3回話すことで、反省点や改善点を次の機会に生かせるようにした。

#### (7) 本時の展開

時間	指導過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
2分	1 挨拶	○質問応答ゲーム ・教師からの既習事項を用いた質問に答える。	・本時のQ&A活動に含まれる質問をする。	
10分	2 展開①	・Q&A活動を行う。 ・ペアを変えてチャット活動（30秒間）を行う。 ・チャット振り返りシートに反省点と改善点を記入する。	・相手の目を見て発話することや、つなぎ言葉の使用を促す。 ・チャット活動終了後に共通の間違いや生徒の言いたかったことを確認し、全体で共有する。	ア（観察）
10分	3 展開②	○教科書の登場人物を用いた Picture Describing 例) Ken という登場人物の絵を教師が生徒に見せ、生徒は既習事項を活用して “He likes soccer.” などと描写する。	・挙手した生徒から答えさせる。	
25分	4 展開③ <b>STEP 1</b>	○身近な人・好きな有名人（一人）について、「～する」と紹介する。 ・like, play, live などの一般動詞を用いて、口頭でお互いに紹介する。	・生徒に、英語で紹介しやすい身近な人・好きな有名人を一人決めさせる。 ・紹介はペアで行わせる。	イ② (ワークシートの点検)

3分	5 振り返り	○振り返り ・「目標について授業でできたこと」と「次回はできるようにしたいこと」を記入する。 ・「Idea Note」に自分の気に入った表現や単元のゴールとなる活動で活用できそうな表現を記入する。	・単元の目標に基づいて振り返りを行わせる。 ・「Idea Note」に記入できるよう、参考となる表現を板書し、記入のヒントとする。	
----	--------	--	--	--

## (8) 検証授業②における成果と課題

### ア 検証授業②における成果

Q&A 活動の内容とチャット活動のテーマを関連させたことで、Q&A 活動で練習した表現をチャット活動でも活用する生徒が多く見られた。各活動につながりをもたせることで、生徒の「話すこと」の活動への抵抗感を減らすことができた。また、単元の初めに「振り返りシート」を配布するとともに、教師が単元のゴールとなる活動のモデルを示すことで、教師と生徒で単元の目標を共有し、生徒が単元の目標を明確に意識することができた。

### イ 検証授業②における課題

本時の「4 展開③」を実施するに当たり、改めて単元のゴールとなる活動の具体例を示すなど、この活動が単元のゴールとなる活動とつながっていることを意識させる必要があった。生徒に学習の見通しをもたせるためには、単元のゴールとなる活動の具体例を、単元を通じて何度も生徒に提示することが必要であることが分かった。

## VII 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

本研究では、三つの「研究の柱」に基づいた指導実践について、取組の効果を検証した。以下、それぞれの「研究の柱」について、成果を述べる。

#### (1) <研究の柱①>の検証

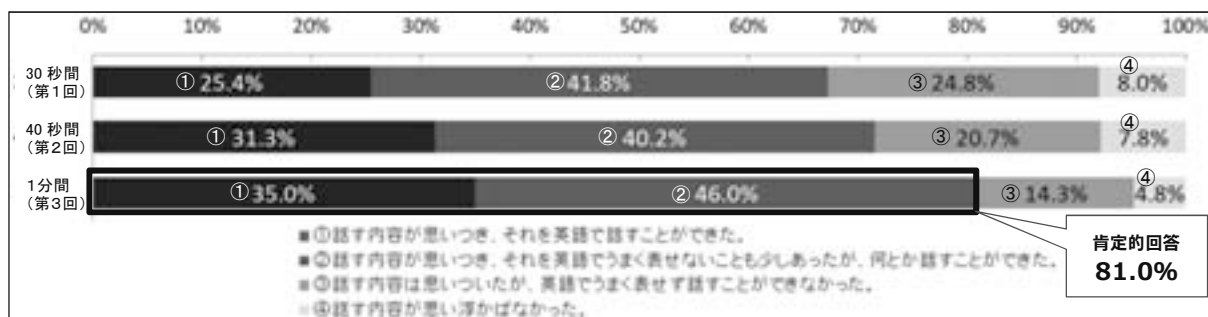
「振り返りシート」を用いることで、生徒が学習の見通しを立て、振り返りを次の「話すこと」の活動につなげているか、「振り返りシート」における生徒の振り返りのコメントを基に効果を検証した。9月と11月における生徒のコメントの例については、次の【図表 12】『振り返りシート』における生徒の振り返りのコメントの例のとおりである。なお、【図表 12】に示しているコメントの例は、第1学年から第3学年までの生徒の振り返りをまとめて記載したものである。

	「授業の中でできたこと」コメントの例	「次の授業でがんばりたいこと」コメントの例
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文が読めた。／話せた。</li> <li>・だいたいできたけれど、よく分からなかった。</li> <li>・あまりよく書けなかった。</li> <li>・あまり考えられなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話したい。／がんばりたい。</li> <li>・分かるようにできたらよいと思う。</li> <li>・英単語を覚える。</li> <li>・テストに向けてがんばる。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京についての話を聞いて、相手にもんじゃ焼きレストランがあるか聞けなかった。</li> <li>・本文の文章を、雷門の様子を表すときに使うことができた。</li> <li>・「～はどこですか」とたずねたり、on, in, under を使って答えたりすることができた。</li> <li>・s を付けるところを忘れないようにしたい。否定文を使いたい。</li> <li>・does の発音がうまくできなかったので、言えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2文でしか表現できなかったの、次回はもう1文言えるようにする。</li> <li>・今日の授業では「there is～」の疑問文が分からなかったの、明日は相手に聞いて分かるようにする。</li> <li>・「～を描くのが上手です」と言えるようになりたい。</li> <li>・these と those の違いが説明できるようにする。</li> <li>・「週5回バスケットボールをする。」と言えるようにする。</li> </ul>

【図表 12】「振り返りシート」における生徒の振り返りのコメントの例



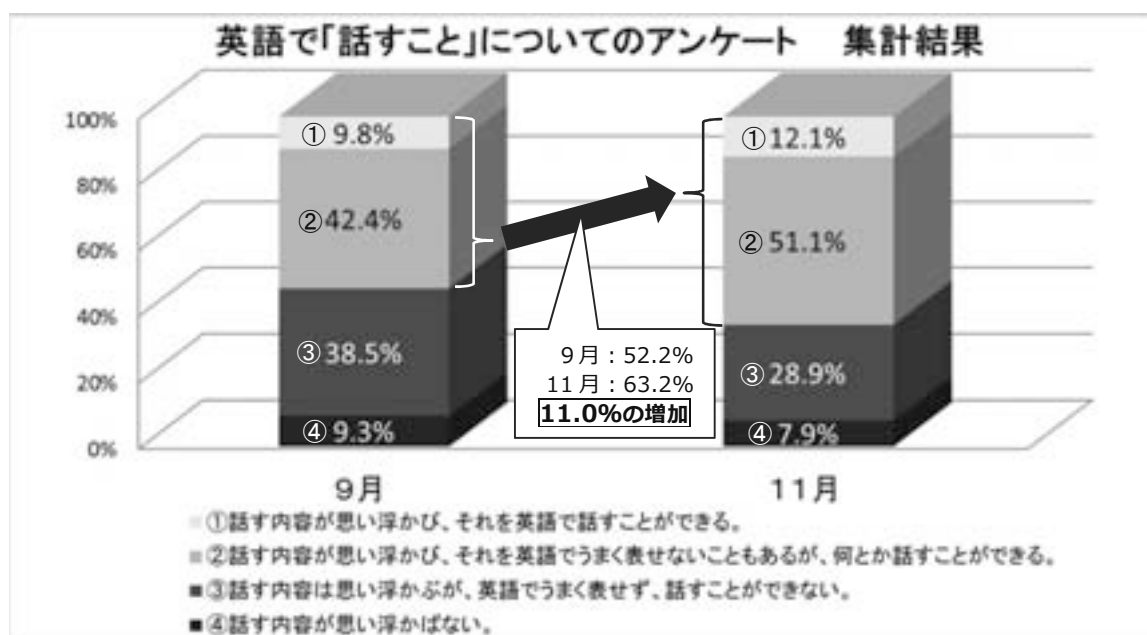
が、何とか話すことができた。」の合計)が回を重ねるごとに増加しているというものであり、第3回(1分間)の肯定的な回答の割合は81.0%であった(【図表14】参照)。このことから、Q&A活動及びチャット活動が、既習事項の定着を図り、自分の考えや気持ちを即興でやり取りする活動となっていたと考えられる。



【図表14】チャット活動の各回における生徒の「英語で話すことのできる」状況

#### (4) 英語で「話すこと」についてのアンケートについて

本研究における取組を実施後、最終的な生徒の状況把握のため、11月に改めて「英語で『話すこと』についてのアンケート」を実施した。9月調査との比較は次のとおりである。



【図表15】英語で「話すこと」についてのアンケート集計結果

9月から11月までにかけて、肯定的な回答(「①話す内容が思い浮かび、それを英語で話すことができる。」と「②話す内容が思い浮かび、それを英語でうまく表せないこともあるが、何とか話すことができる。」の合計)の割合が11.0%増加した。このことから、英語を用いて自分の考えや気持ちを話すことのできる生徒の割合が増加していることが分かった。

以上の(1)~(4)の内容から、本研究の取組は、本研究において定義した「主体的に話す(話すことに興味や関心を持ち、自分の考えや気持ちをどのように話すか見通しを立て、話す活動に粘り強く取り組み、話した内容を振り返って、次の話す機会につなげる。)」生徒の育成に向けて、一定の成果を上げたと考えられる。

## 2 研究の課題

本研究の取組は「英語を用いて主体的に話すことができる生徒」の育成に一定の成果を上げることができた。一方で、それぞれの検証の視点において課題も明らかになった。以下、その内容を述べる。

### (1) <研究の柱①>について

「振り返りシート」と「Idea Note」の記入を行わせるために一定の時間が必要になるが、授業内容によってはそのための時間を十分に確保することが難しい場面があった。また、少人数・習熟度別指導のように、複数の教員が同一学年の授業を担当している場合、これら2種類のワークシートの扱いを統一することが難しかった。記入例を記載したり、模範となる生徒の例を配布したりすることで、これらのワークシートに関する教員相互、教員と生徒との共通理解を深め、生徒が主体的に「話すこと」の活動に取り組んでいけるよう、更に工夫をしていく必要がある。

### (2) <研究の柱②>について

生徒が各「STEPの活動」に取り組んだ際、取組に関する自己評価において、常に3割程度の生徒が否定的回答（「①積極的にできなかった。」と「②あまり積極的にできなかった」の合計）であった。授業実践において単元のゴールとなる活動と各「STEPの活動」の関連を示しているが、一部の生徒にとってはこれで十分とは言えない状況があった。活動に意欲的に取り組めるようにするため、練習の過程において、単元のゴールとなる活動の一部を「STEPの活動」の表現を用いて繰り返し言わせるなど、実際に経験させることを通じて、各「STEPの活動」の意義を理解させていく工夫が必要である。

### (3) <研究の柱③>について

チャット活動において、それぞれのテーマにおける生徒の「英語で話すことのできる」状況を調査した結果、テーマによって取り組みやすいもの、取り組みにくいものがあることが分かった。しかし、本研究では具体的な事例の分析を行ったのみであり、複数のテーマについて一定の傾向を明らかにしたもの、話しやすいテーマに共通する性質などを抽出できていないことが課題である。また、Q&A活動及びチャット活動全体の効果については、生徒の自己評価の結果から間接的に成果を明らかにしている状況であり、Q&A活動における既習事項の定着状況、チャット活動における既習事項を活用した即興でのやり取りの状況については、その効果を適切に見取る評価の方法等を検討する必要がある。

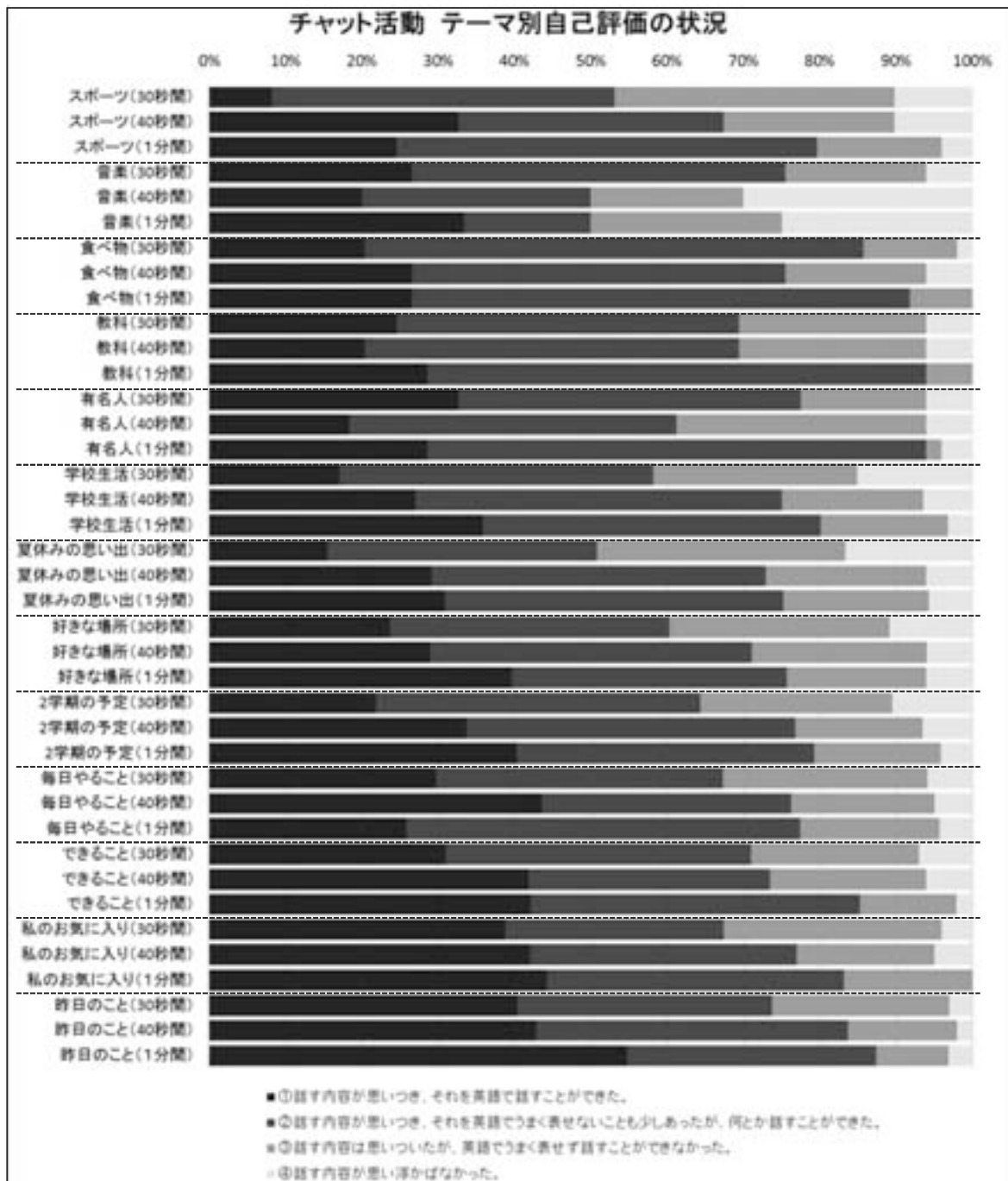
なお、チャット活動における各テーマの分析は次のとおりである。

#### ア チャット活動におけるテーマ別自己評価の状況から

第3回（1分間）において、否定的な回答（「③話す内容は思いついたが、英語でうまく表せず話すことができなかった。」と「④話す内容が思い浮かばなかった。」）が10%未満である話題が「食べ物、教科、有名人」であり、これらのテーマは生徒にとって話しやすいものだったと言える。また、同様に否定的な回答が20%程度に満たないテーマは「スポーツ、学校生活、2学期の予定、できること、昨日のこと」であり、これらについても比較的取り組みやすいテーマであることが分かった。一方で、「音楽」についてはチャット活動が第2回（40秒間）、第3回（1分間）と進むに従い否定的な回答が増えるという結果



になった。これは、Q&A 活動で学習した語彙や表現を用いて 30 秒間程度ならば会話を継続することができるが、会話が長くなるに従って話す内容がなくなり（または話す内容はあっても相手に話したくない内容となり）、会話の継続が困難になったことを示している。本研究員が生徒から聞き取った意見の中には「好きな音楽がないので話しにくい。」、「好きな歌手はいるが、それを会話の相手に話すのは恥ずかしい。」というものがあつた。このことから、「音楽」のように生徒によって興味・関心の程度に差があつたり、内容を会話の相手に伝えることに負担や恥ずかしさを感じたりするテーマでは、たとえ日本語であっても話しぶり状況が発生する可能性があり、チャット活動のテーマとしては避けた方がよいことが分かつた。（【図表 16】「チャット活動におけるテーマ別自己評価の状況」を参照）。



【図表 16】 チャット活動におけるテーマ別自己評価の状況

また、チャット活動を行う際には、日常生活や学校行事などお互いによく知っている内容について自分の考えや気持ちを伝えるテーマや、自分自身のことについて語る場合でも、「食べ物、教科、スポーツ、できること」など、一般的によく語られる内容であり、生徒が話す際に心理的負担の少ないものにするとういことが分かった。

#### (4) 英語で「話すこと」についてのアンケートについて

アンケート結果から、肯定的な回答の割合が 11.0%増加したことは既に述べたとおりであるが、この増加は「英語で話すことができるかどうか」についての生徒の自己評価の結果である。このことが、本当に「英語を用いて生徒が主体的に話す」ことを意味しているのかどうかについては、更に詳細な分析、調査が必要である。また、依然として、36.8%の生徒が否定的な回答（「③話す内容は思い浮かぶが、英語でうまく表せず、話すことができない。」と「④話す内容が思い浮かばない。」の合計）をしており、これらの生徒に対する効果的な指導方法等を工夫することが求められる。

以上の(1)～(4)の内容を踏まえ、今後も、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう、単元の構成や各活動の位置付けを工夫する必要がある。また、それらを生徒に明示して、生徒の意欲を高める指導、生徒が既習事項を活用して即興でやり取りできるようにするための指導等を工夫していくことで、生徒が「話すこと」の活動に意欲的に取り組み、「英語を用いて主体的に話せる」ようにするための授業改善を続けていくことが重要である。

# 平成 30 年度 教育研究員名簿

## 中学校・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
江 東 区 立 第 四 砂 町 中 学 校	主任教諭	水 嶋 諒
足 立 区 立 入 谷 南 中 学 校	教 諭	島 田 拓
江 戸 川 区 立 松 江 第 四 中 学 校	主任教諭	◎鈴 木 亜紀子
江 戸 川 区 立 瑞 江 第 二 中 学 校	主任教諭	渡 邊 恵 美
八 王 子 市 立 別 所 中 学 校	主任教諭	小 川 史 哲
武 蔵 村 山 市 立 第 四 中 学 校	教 諭	出 河 真 実
武 蔵 村 山 市 立 第 一 中 学 校	教 諭	三 宅 修 二 朗

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課  
指導主事 早川 裕之

平成 30 年度

教育研究員研究報告書  
中学校・外国語

東京都教育委員会印刷物登録  
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月 発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社